

Oracle Endeca Commerce

スタート・ガイド

リリース**3.1.1** • **2012**年**12**月



目次

はじめに.....	7
このガイドについて.....	7
このガイドの対象読者.....	8
このガイドで使用する規則.....	8
Oracleサポートへの連絡.....	8
第 1 章 : スタート・ガイドのタスクの概要	9
『Oracle Endeca Commerceコンセプト・ガイド』の確認	9
インストール・パッケージのダウンロード.....	9
1台のマシンでのOracle Endeca Commerceのインストール.....	10
ハードウェア要件.....	10
サポートされているオペレーティング・システム.....	10
リファレンス・アプリケーションのデプロイ.....	11
第 2 章 : Oracle Endeca Commerceのコンポーネント.....	13
MDEX Engineについて	13
Platform Servicesについて.....	14
Tools and Frameworksについて.....	15
Content Acquisition Systemについて.....	17
Developer Studioについて.....	18
第 3 章 : Endeca Assemblerアプリケーションの概要.....	19
Tools and Frameworksアプリケーションの特徴について.....	19
Oracle Endeca Commerceアーキテクチャの概要.....	20
コンテンツ項目とカートリッジについて.....	22
カートリッジの構造.....	23
Discover Electronicsアプリケーションについて.....	24
第 4 章 : WindowsでのOracle Endeca Commerceのインストール.....	25
WindowsでのMDEX Engineのインストール.....	25
WindowsでのPlatform Servicesのインストール.....	26
WindowsでのTools and Frameworksのインストール.....	27
Tools and Frameworksのインストールの確認.....	27
WindowsでのCASのインストール.....	28
CASのインストールの確認	29
Developer Studioのインストール.....	29
Developer Studioのインストールの確認.....	29
第 5 章 : UNIXでのOracle Endeca Commerceのインストール.....	31
UNIXでのMDEX Engineのインストール.....	31
UNIXでのPlatform Servicesのインストール.....	32
UNIXでのTools and Frameworksのインストール.....	33
Tools and Frameworksのインストールの確認.....	33
UNIXでのCASのインストール.....	34
CASのインストールの確認	35
第 6 章 : リファレンス・アプリケーションのデプロイ.....	37
Discover Electronicsリファレンス・アプリケーションのデプロイ.....	37

第 7 章 : 次のステップ	39
次の開発タスクに必要なドキュメントの参照先	39
付録 A : ドキュメント・リソースの詳細リスト	41
Endecaの全般ドキュメント.....	41
MDEX Engineのドキュメント.....	42
Presentation APIのドキュメント.....	42
Platform Servicesのドキュメント.....	43
Tools and Frameworksのドキュメント.....	44
Content Acquisition System (CAS)のドキュメント.....	46
Developer Studioのドキュメント.....	47

Copyright and disclaimer

Copyright © 2003, 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

This software or hardware and documentation may provide access to or information on content, products and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services.

Oracle Endeca Commerceソリューションにより、企業は、パーソナライズされた一貫性のある顧客購買時体験を、すべてのチャネル (オンライン、インストア、モバイルまたはソーシャル) にわたって提供できます。Oracle Endeca Commerceソリューションは、顧客が自社と取引する時間や場所に関係なく、適切な顧客に対する適切なコンテンツを提供、分析およびターゲティングし、顧客のクリックを誘導してビジネス成果をもたらします。

Oracle Endeca Commerceは、顧客が店頭を動的に閲覧し、希望に沿って適切なアイテムをすばやく見つけるための最も有効な手段です。業界をリードするファセット検索と誘導ナビゲーションのソリューションであるOracle Endeca Commerceを使用すると、企業は、顧客の検索エクスペリエンスの各ステップで各顧客を容易に誘導できます。Oracle Endeca Commerceの中核であるMDEX Engine(TM)は、高いパフォーマンスの閲覧や検出のために特に設計されたハイブリッドな検索-分析データベースです。Endeca Content Acquisition System (CAS) は、構造化データと非構造化コンテンツの両方を多様なソース・システムからMDEX Engineに取得するための、一連の拡張可能なメカニズムを備えています。Endecaアセンブラは任意のリソースからコンテンツを動的に収集し、MDEX Engineからの結果とシームレスに結合します。

Oracle Endeca Experience Managerは単一の柔軟なソリューションで、ユーザーはコンテンツリッチなクロスチャネルの顧客エクスペリエンスを創出、提供および管理できます。また、技術者ではないビジネス・ユーザーは、ターゲット指定されたユーザー中心のオンライン・エクスペリエンスを拡張可能な方法で提供し、常に顧客と適切な関係性を構築することでコンバージョン率を高め、クロスチャネル販売を促進できます。ビジネス・ユーザーは、検索、カテゴリ選択またはファセット絞り込みに応答してコンテンツを提示する方法、場所、時期および提示するコンテンツのタイプを制御できます。

これらのコンポーネントは、SEO、ソーシャルおよびモバイル・チャネル・サポート用の追加モジュールとともに、顧客エクスペリエンス管理プラットフォームであるOracle Endeca Experience Managerの中核を構成しています。Oracle Endeca Experience Managerは、すべての顧客のタッチ・ポイント全体にわたって、それぞれの顧客の各ステップに対して最も適切で、ターゲティングされ、最適化されたエクスペリエンスを提供することに重点を置いています。

このガイドについて

このガイドでは、Oracle Endeca Commerceの基本インストールについて説明します。また、Discover Electronicsリファレンス・アプリケーションのデプロイと、Assemblerベースのアプリケーションの最初の手順についても説明します。

サイレント・インストールなど、インストールの詳細は、インストールする各コンポーネントのインストールレーション・ガイドを参照してください。

このガイドの対象読者

このガイドは、Oracle Endeca Commerceを開発環境にインストールし、Assemblerアプリケーションの基本を習熟しようとする開発者およびシステム・インテグレータを対象としています。

このガイドで使用する規則

このガイドでは次の表記規則を使用します。

コード例、コード要素に対するインライン参照、ファイル名およびユーザーが入力するテキストは、固定幅フォントで設定されています。コードの行が長い場合や、インラインの固定幅テキストが行末にある場合は、内容が次の行に続くことを示すために、記号「`↵`」が使用されます。

このようなコード例をコピーして貼り付ける場合は、この記号とそれに対応する改行が削除され、余分なスペースが残っていないことを確認してください。

Oracleサポートへの連絡

Oracleサポートでは、Oracle Endecaソフトウェア、実装に関する質問、製品とソリューションのヘルプ、および全般的なニュースや更新内容に関する重要な情報を登録ユーザーに対して提供しています。

Oracleサポートには、Oracleサポート・ポータルのMy Oracle Support (<https://support.oracle.com>) を通して連絡できます。

第 1 章

スタート・ガイドのタスクの概要

このガイドでは、Oracle Endeca Commerceをインストールしてリファレンス・アプリケーションをデプロイし、全機能を備えたアプリケーションでテスト・データ・セットを調べる手順について説明します。

『Oracle Endeca Commerceコンセプト・ガイド』の確認

Oracle Endeca Commerceを使用するのが初めてで、製品トレーニングに参加した経験もない場合は、『Oracle Endeca Commerceコンセプト・ガイド』をお読みください。このガイドでは、Endeca固有の用語や概念が説明されています。Oracle Endeca Commerce Glossaryもあわせて利用するとよいでしょう。(ドキュメントはOracle Technology Networkからダウンロードできます。)

他のドキュメントについては、すべてをインストールしてリファレンス・アプリケーションを操作するようになってから読んで構いません。

インストール・パッケージのダウンロード

Oracle Endeca Commerceは、次にあげるインストール・パッケージで構成されます。Oracle Software Delivery Cloudからダウンロードできます。

- MDEX Engine 6.4.0。必須。
- Platform Services 6.1.3。必須。
- Tools and Frameworks 3.1.1。必須。このコンポーネントには2つのパッケージ・オプションがあります。Oracle Endeca Guided Searchのインストール・パッケージと、Oracle Endeca Experience Managerのインストール・パッケージです。
- Content Acquisition System (CAS) 3.1.1。オプション。
- Developer Studio 6.1.3。オプション。

このガイドで説明しているスタート・ガイドのシナリオに、インストール・パッケージのすべてが必要なわけではありません。たとえば、Developer StudioとContent Acquisition Systemのインストールはオプションです。

ただし、オプション・パッケージのインストールは、Oracle Endeca Commerceの全体像の理解には有益であり、開発環境の機能をすべて調べることができます。

1台のマシンでのOracle Endeca Commerceのインストール

わかりやすいように、すべてのコンポーネントを開発作業用の1台のマシンにインストールします。こうすると、インストールと構成、コンポーネント間の通信がシンプルになり、システムの動作を理解しやすくなります。ステージング環境や実稼働環境など、複数のホストを使用するさらに複雑な環境については、開発者向けガイドや管理者用ガイドを参照してください。「付録A: ドキュメント・リソースの詳細リスト」を参照してください。

最新バージョンの各ソフトウェアを、次の順番でインストールします。

1. MDEX Engine
2. Platform Services
3. Tools and Frameworks.
4. Content Acquisition System (CAS)
5. Developer Studio

Oracle Endeca Commerceでコンポーネントのバージョン互換性を確認するには、Oracle Technology Networkで利用できるOracle Endeca Commerce Compatibility Matrixを参照してください。

ハードウェア要件

このガイドで、「x64」という用語は、AMD64/EM64Tアーキテクチャと互換性のあるプロセッサを意味します。

x64版Linux、x64版Windows

最小ハードウェア要件

- 1.8GHz以上のx64プロセッサ
- 4 GB以上のRAM
- インストール・パッケージ用に、10 GBの空きハードディスク容量

サポートされているオペレーティング・システム

Endecaソフトウェアは、x64プロセッサ搭載のサーバーで稼働する次の64ビット・オペレーティング・システムをサポートしています。

- Oracle Linux 5
- Red Hat Enterprise Linux Server (バージョン5、x64)
- Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform (バージョン5、x64)
- SUSE Enterprise Linux 11
- Windows Server 2008 R2 Enterprise

 注: 環境にかかわらず、32ビット版のオペレーティング・システムはMDEX Engineでサポートされていません。

 注: Windows 7は、実稼働のデプロイ対象としてはサポートされていませんが、トレーニングや小規模なデプロイ作業には十分対応します。開発者がWindows 7を使用している場合は、マシ

ンごとのインストールかユーザーごとのインストールを選択できます。マシンごとのインストールの場合、管理者権限が必要です。ユーザーごとのインストールの場合、管理者権限は不要ですが、機能が制限されます。

Oracle Exalogic Elastic Cloud 11gR1のサポート

Oracle Endeca Commerceは、次のゲスト・オペレーティング・システム上のOracle Exalogic 11gR1環境でサポートされています。

- Oracle Linux 5

VMware ESX 3.5のサポート

Oracle Endeca Commerceは、次のゲスト・オペレーティング・システム上のVMware ESX 3.5環境でサポートされています。

- Red Hat Enterprise Linux Server (バージョン5、x64)
- Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform (バージョン5、x64)

VMware vSphere 4および4.1のサポート

Oracle Endeca Commerceは、次のゲスト・オペレーティング・システム上のVMware vSphere 4および4.1環境でサポートされています。

- Red Hat Enterprise Linux Server (バージョン5、x64)
- Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform (バージョン5、x64)
- SUSE Enterprise Linux 11
- Windows Server 2008 R2 Enterprise

Amazon Elastic Compute Cloud (EC2)のサポート

Oracle Endeca Commerceは、次のゲスト・オペレーティング・システム上のAmazon EC2環境でサポートされています。

- Amazon Linux AMI
- SUSE Enterprise Linux 11
- Windows Server 2008 R2 Enterprise

リファレンス・アプリケーションのデプロイ

インストール・プロセスが完了したら、Discover Electronicsというリファレンス・アプリケーションをデプロイし、全機能を備えたWebアプリケーションと、Endeca Assemblerアプリケーションのアーキテクチャを調べることができます。

第2章

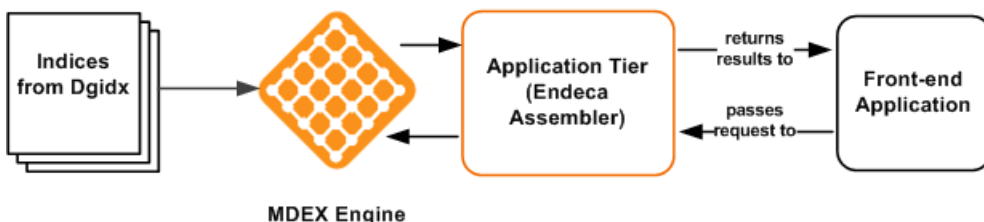
Oracle Endeca Commerceのコンポーネント

この項では、Oracle Endeca Commerceを構成する各コンポーネントについて説明します。

MDEX Engineについて

Endeca MDEX Engineは、すべてのEndecaソリューションのバックボーンとなる、索引付けと問合せのエンジンです。

MDEX Engineが使用する独自のデータ構造とアルゴリズムは、クライアント・リクエストにリアルタイムにレスポンスを返すことを可能にします。MDEX Engineは、Dgidx索引付けプログラムによって作成された索引を格納します。索引が格納されると、MDEX Engineはアプリケーション層を経由してクライアント・リクエストを受信し、索引に問い合わせ、その結果を返します。



MDEX Engineは、ステートレスな設計です。この設計では、リクエストごとにMDEX Engineに完全な問合せを送信する必要があります。MDEX Engineはステートレス設計のため、MDEX Engineサーバーを追加して負荷分散と冗長性を実現できます。MDEX Engineはステートレスなので、1つのサーバー上にあるMDEX Engineのレプリカは、他のMDEX Engineサーバー上のレプリカとは独立して問合せに応答することができます。

そのため、追加のサーバー上でMDEX Engineのレプリカを追加すると、冗長性によって問合せのレスポンス時間が短縮されます。つまり、特定のサーバーが停止しても、MDEX Engineのレプリカによる冗長性のため、他のサーバーが問合せへの応答を続行するということです。また、負荷分散によって問合せを任意の他のサーバー上のレプリカMDEX Engineに分配できるため、応答時間はさらに向上することになります。

MDEX Engineパッケージには、主として次の2つのコンポーネントがあります。

- Dgraph
- Dgidx

Dgraph

Dgraphは、MDEX Engineのプロセスの名前です。典型的なEndecaの実装には、1つ以上のDgraphがあります。

Dgidx

Dgidxは索引付けプログラムです。ForgeまたはCASによって準備され、タグ付けされたEndecaレコードを読み取り、Endeca MDEX Engineのプロプライエタリな索引を作成します。

Platform Servicesについて

Platform Servicesパッケージには、次のコンポーネントが含まれています。

- Endeca Application Controller (EAC)
- Data Foundry
- Logging and Reporting System
- 実装リファレンス
- emgr_update

Endeca Application Controller (EAC)

EACコンポーネントは、EAC Central Server (Endeca実装の全エージェントのコマンド、制御、監視を調整する)、EAC Agent (1つのホスト・マシン上でEndeca実装の作業を制御する)、およびEAC コマンドライン・ユーティリティeaccmdで構成されています。

Data Foundry

Forgeプログラムと、それに関連するレコード・アダプタ、レコード・マニピュレータ、ディメンション・サーバー、プロパティ・マッパーなどのコンポーネントで構成されます。Content Adapter Development Kit (CADK)もインストールされます。Dgidxプログラムはこのパッケージに含まれませんが、MDEX Engineインストール・パッケージで利用できます。

Logging and Reporting System

Log ServerとReport Generatorは、(Logging APIとともに) Endeca Logging and Reporting Systemを構成します。

実装リファレンス

JSPおよび.NETのフロントエンド・アプリケーションなど、サンプルEndecaアプリケーション。これらのアプリケーションは、主にソース・データの確認と検証に使用されます。

emgr_update

インスタンス構成の一部をEndeca Workbenchにアップロードし、Endeca Workbenchからダウンロードするユーティリティ。

Tools and Frameworksについて

Tools and Frameworksパッケージには、次のコンポーネントが含まれています。

- Oracle Endeca Workbench
- Endeca Assembler
- Experience Manager
- Experience Manager SDK
- Rule Manager
- Endeca for Mobile (Webのみ)
- Deployment Template
- リファレンス・アプリケーション
- URL Optimization API

Oracle Endeca Workbench

Oracle Endeca Workbenchは、Webベースのツールです。Oracle Endeca Workbenchを使用して、マーチャндаイザなどのビジネス・ユーザーはEndecaアプリケーションの一部を構成でき、システム管理者はEndecaを構成し管理することができます。

Developer StudioがEndecaのあらゆる側面を構成できるリッチな開発環境であるのに対して、Oracle Endeca Workbenchは日々の一般的な構成タスクやメンテナンス・タスクの小さい単位に特化しています。対象を限定することで、Workbenchはフットプリントが(Developer Studioに比べて)小さくなり、Webベースのアプリケーションの境界内に収まります。Workbenchには、Experience ManagerやRule Managerなど、ビジネス・ユーザーが使用する追加の機能もあります。

Endeca Assembler

Endeca AssemblerのAPIを利用すると、WebアプリケーションでMDEX Engineを問い合わせ、ユーザーのナビゲーション状態などのトリガーに基づいて適切な動的コンテンツを取得することができます。Endeca Assemblerは、コンテンツ管理者によって指定されたページ構成をカプセル化するコンテンツ項目オブジェクトと、Endecaの問合せ結果との両方を返します。1つのページのコンテンツは、関心を集めたり販売促進するために必要な追加問合せの結果なども含め、すべてコンテンツ項目オブジェクトにラップされるため、アプリケーション層で副問合せを管理する必要がなくなり、フロントエンド・アプリケーションのロジックが簡単になります。

Endeca Assembler APIにはURL Optimization APIも含まれているので、インターネット検索エンジンに最適化されたアプリケーションURLを作成できます。具体的には、このAPIにはURLの短縮および正規化の機能と、検索キーワードおよびナビゲーション・キーワードをURLに追加する機能があります。生成されるURLは、さらにインターネット検索エンジンに最適化され、フロントエンド・アプリケーションのユーザーにとっても理解しやすくなります。

コア・カートリッジとDiscover Electronicsリファレンス・アプリケーションは、URL Optimization APIとEndeca Assemblerを組み合わせで検索エンジンに最適化されたURLを生成します。このシナリオにおけるリファレンス・アプリケーションは、URL Optimization APIを有効化するときも、検索エンジンに最適化されたURLを生成するときも、構成ファイルを使用します。デフォルトでは、リファレンス・アプリケーションはURL Optimization APIを使用しません。明示的に有効化する必要があります。

Experience Manager

Experience Managerは、リッチで動的なランディング・ページを短時間で作成できるOracle Endeca Workbenchの拡張機能です。Experience Managerを利用すれば、コンテンツ管理者は今までになく自在にサイト・コンテンツを管理できるようになり、ITの介入は不要になります。

Experience Manager Editor SDK

Experience Manager Editor SDKを利用すると、アプリケーション管理者はカスタム・コンテンツ・エディタを介して新しい機能をExperience Managerに導入できるようになります。SDKは、Experience Manager Editor API、サンプル・エディタ・プロジェクト、および関連ドキュメントで構成されます。

Rule Manager

Rule Managerは、コンテンツ管理者が使用するOracle Endeca Workbenchの拡張機能です。ルールの作成と変更、ルールのアクティブ化と非アクティブ化、ルールの優先度の変更、オーサリング・アプリケーションでのルールのプレビューが可能になります。

Endeca for Mobile (Webのみ)

Endeca for Mobileは、マルチチャネルに対してExperience Managerカートリッジとリファレンス・アプリケーションのサポートを可能にします。Endeca for Mobileのカートリッジは、Endeca Assembler APIを利用してモバイル・デバイス上でEndecaアプリケーションをレンダリングします。

 注: Endeca for Mobileは、Oracle Endeca Guided SearchおよびOracle Endeca Experience Managerとは別にライセンスされます。追加のソフトウェア・ライセンスが必要です。

Deployment Template

Deployment Templateは、デプロイメントに必要な完全ディレクトリ構造を持つ新しいEndecaアプリケーションを作成するときに実行するユーティリティです。Endeca Application Controller (EAC) 制御スクリプト、構成ファイル、および共通のスクリプト機能をラップするバッチ・ファイルまたはシェル・スクリプトが含まれます。

リファレンス・アプリケーション

リファレンス・アプリケーションには、Discover Electronicsリファレンス・アプリケーション、JSPリファレンス・アプリケーション(Workbenchとともにインストールされる)、およびMedia MDEXアプリケーションが含まれます。

デプロイされたDiscover Electronicsリファレンス・アプリケーションには、アプリケーションのオーサリング・インスタンスとライブ・インスタンスがあります。

オーサリング・インスタンスは、コンテンツ管理者がサイトのコンテンツを開発、テストし、その変更をプレビューする開発環境です。コンテンツ管理者は、オーサリング・アプリケーションで反映された変更をすぐに確認できます。コンテンツ管理者がオーサリング・アプリケーションに満足したら、構成とコンテンツをオーサリング・アプリケーションからライブ・アプリケーションに移動し、フロントエンド・アプリケーションのユーザーが使用できるようになります。

Oracle Endeca Guided SearchおよびOracle Endeca Experience Managerのパッケージング

Tools and Frameworksは、2つのインストール・パッケージで提供されます。

- Oracle Endeca Experience Manager - Experience ManagerとExperience Manager Editor SDKが含まれます。(このパッケージは、Oracle Endeca Guided Searchのスーパー・セットです。)
- Oracle Endeca Guided Search - Rule Managerが含まれますが、Experience ManagerとExperience Manager Editor SDKは含まれません。

Content Acquisition Systemについて

Content Acquisition Systemは、Endecaアプリケーションで使用するデータ・ソースを追加、構成、クロールする一連のコンポーネントです。データ・ソースには、ファイル・システム、コンテンツ管理システム、Webサーバー、およびカスタムのデータ・ソースがあります。Content Acquisition Systemは、データ・ソースをクロールし、ドキュメントとファイルをEndecaレコードに変換して、パイプラインで使えるように格納します。

Endeca Content Acquisition Systemは、次のコンポーネントで構成されます。

- Endeca CAS Service
- CAS Server
- CAS Console for Endeca Workbench
- CMS Data Sources
- CAS Extension API
- Endeca Web Crawler
- Endeca Record Store
- Dimension Value Id Manager
- Component Instance Manager

Endeca CAS Service

Endeca CAS Serviceは、CAS Server、Component Instance Manager、および任意の数のRecord Storeインスタンス(データ・ソースごとに1つ)を実行するサブレット・コンテナです。

CAS Server

CAS Serverは、すべてのファイル・システムとCMSクローリング操作を管理するコンポーネントです。CAS ServerのAPIを利用すると、CAS Serverと通信するプログラムを記述できます。CAS ServerのAPIには、WSDLインタフェースとCAS Serverコマンドライン・ユーティリティがあります。

CAS Console for Endeca Workbench

CAS Console for Endeca Workbenchは、ファイル・システムやコンテンツ管理システムなど各種のデータ・ソースのクローリングに使用するWebベースのアプリケーションです。Content Acquisition Systemのインストール時に、CAS ConsoleがEndeca Workbenchの拡張機能としてインストールされます。

CMS Data Sources

CMS Data Sourcesは、CAS Console for Endeca WorkbenchまたはCAS Server APIで使用できます。CMS Data Sourcesを使用して、Documentum、eRoom、FileNet、JSR-170準拠のリポジトリ、Lotus Notes、Microsoft SharePoint、Interwoven TeamSiteなど様々なCMSタイプのデータ・ソースにアクセスし、それをクロールすることができます。

CAS Extension API

CAS Extension APIは、カスタム・データ・ソースやカスタム・マニピュレータなどの拡張機能を作成するインタフェースとクラスを提供します。拡張機能は、プラグインにパッケージしてContent Acquisition Systemにインストールします。プラグインをインストールすると、拡張機能はCAS Console、CAS Server API、CAS Serverコマンドライン・ユーティリティで使用できるようになります。

Endeca Web Crawler

Endeca Web Crawlerは、Webクロール関係のすべての操作を管理します。

Endeca Record Store

Endeca Record Storeは、各世代のレコードを格納する永続ストレージです。Record Storeには、WSDLインタフェースと、Record Storeコマンドライン・ユーティリティがあります。CAS Serverは、各データ・ソースからのクロール出力を、一意のRecord Storeインスタンスに書き込みます。

Developer Studioについて

Developer Studioは、Endecaのプロパティやディメンション、優先順位ルール、動的ビジネス・ルール、ユーザー・プロファイルなどのパイプライン・コンポーネントを含めたインスタンス構成のあらゆる側面を定義する、Windowsアプリケーションです。

Developer Studioでは、次のものを定義できます。

- データのロード、標準化、結合、マッピング、エクスポートなどのタスクに利用するパイプライン・コンポーネント。
- ソースやロールアップなど、Endecaのプロパティとプロパティ属性。
- ディメンションとディメンション値。ディメンション階層も含む。
- ディメンション間で、実装のナビゲーション・フローの管理性を向上する優先順位ルール。
- どのプロパティとディメンションを検索できるかなど、検索の構成。

Developer Studioは、.esp拡張子の付いたプロジェクト・ファイルを使用します。このファイルに、インスタンス構成をサポートするXMLファイルへのポインタが含まれます。

第 3 章

Endeca Assemblerアプリケーションの概要

この項では、Endeca Assemblerを使用して構築し、Oracle Endeca Workbenchで構成されたアプリケーションの概要を説明します。

Tools and Frameworksアプリケーションの特徴について

Tools and Frameworksでは、複数のチャンネルにわたるフロントエンド・アプリケーション・ユーザーに、動的でコンテキスト依存のコンテンツを提供するWebアプリケーションを開発できます。

Tools and Frameworksで作成されるマルチチャンネル・アプリケーションには、次のような利点があります。

ビジネス・ユーザーが管理する動的コンテンツ

Experience Managerには、マーチャンダイザやブランド・マネージャ、コンテンツ管理者が顧客向けサイトのコンテンツを管理するためのインタフェースが用意されています。Experience Managerでは、エンド・ユーザーの検索状態やナビゲーション状態、ユーザー・プロファイル、その他の要因に基づいてコンテキスト依存コンテンツを表示する動的なページを、ビジネス・ユーザーが作成できます。カートリッジベースのコンポーネント・モデルによって、テンプレート中心のフレームワークで柔軟なコンテンツ構成が可能になるため、サイト全体で一貫性が保たれます。

問合せ時における複数のサービスとの統合

Endeca Assemblerは、Endecaレコードとして格納されている情報を求めるMDEX Engineへの問合せを統合するだけでなく、コンテンツ管理システム、インベントリ追跡システム、または他のWebベース・サービスなどのサードパーティ・サービスをリクエストすることもできます。結果は、Endeca Assemblerがレンダリング層に返すモデル・オブジェクトにマージされます。そのためExperience Managerは、コンテンツがレコードとしてMDEX Engineに保持されている場合でも他のシステムに格納されている場合でも、そのコンテンツを表示するときの一元的な構成ソースになります。

言語に中立的なアプリケーション層サポート

Endeca Assemblerは、レンダリング可能なモデル・オブジェクトをXML形式またはJSON形式で返すことができます。このモデル・オブジェクトは、.NETやPHP、Flashベースのアプリケーションな

ど各種のレンダリング・エンジンによって使用されます。これは、AJAXまたはモバイル・アプリケーションにとっても理想的です。Endeca Assemblerは、ネイティブJavaアプリケーションとして埋め込まれている場合、モデル・オブジェクトをPOJO (Plain Old Java Object)として返すこともできます。

構成可能なリファレンス・アプリケーションでの使用が簡単

Oracle Endeca Tools and Frameworksパッケージには、全機能を備えたリファレンス・アプリケーションが含まれています。これは、Endeca Experience ManagerアプリケーションやGuided SearchアプリケーションをEndeca Assemblerで構築するときのベスト・プラクティスを示すアプリケーションです。このアプリケーションをカスタマイズすれば、最小限のカスタム・コードによる簡単な構成だけで、最も中心的なEndecaの機能を網羅できます。Oracle Endeca for MobileなどのEndecaモジュールを追加すれば、同じようなアクセラレータ・アプリケーションを実装して、基本的なリファレンス・アプリケーションをマルチチャネルのデプロイに拡張することができます。

拡張可能なフレームワーク

Endeca Assemblerアプリケーション・アーキテクチャのどの部分も、Experience ManagerインタフェースからAssemblerコンポーネント(カートリッジ・ハンドラと呼びます)へ拡張可能です。Assemblerコンポーネントは、モデル・オブジェクトを生成し、外部コンテンツ・リソースとの対話を管理します。オラクルからは、Endecaコア機能の構成を有効化し、Endeca MDEX Engineへの問合せを管理する一連のコア・モジュールが提供されています。

Oracle Endeca Commerceアーキテクチャの概要

Endeca AssemblerとExperience Managerは、連携して動的なアプリケーションを動かします。このアプリケーションは、様々なクライアント・アプリケーションを通じて各種のソース・システムから一貫した形でコンテンツを表示できます。

Experience ManagerはOracle Endeca Workbenchツール・スイートの一部であり、コンテキスト依存コンテンツの構成を管理するインタフェースです。コンテンツ管理者は、対象を絞った説得力のある顧客体験を作り出すことができます。Workbenchの設定および構成の詳細は、*Workbench管理者ガイド*を参照してください。

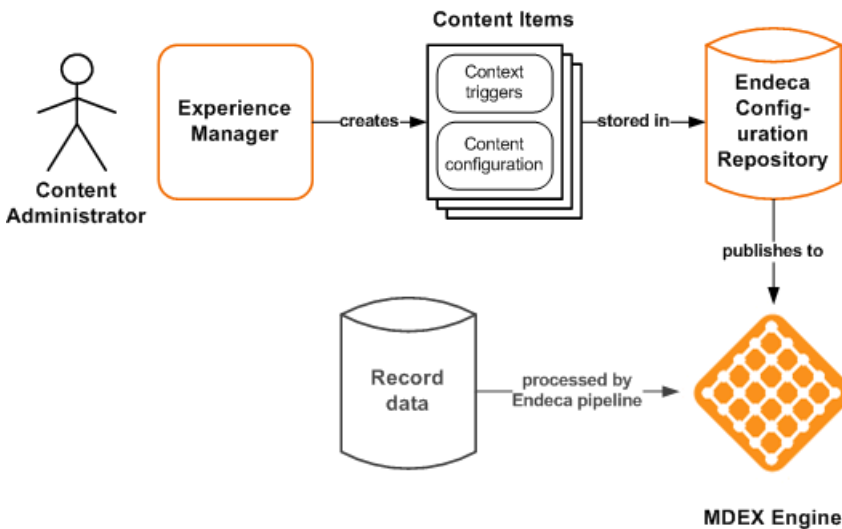
Endeca Assemblerには、コンテンツを管理するソース・システムにも、それを表示するクライアントにも無関係に、あらゆるコンテンツ問合せのために統合されたインタフェースがあります。Assemblerは、エンド・ユーザーのコンテキストとコンテンツ管理者の構成に基づいて、サイトで表示するコンテンツを集約し、レンダリング可能なモデルとして返します。

構成フロー

Experience Managerを使用して、コンテンツ管理者はサイトの一連のコンテンツ項目を作成します。各コンテンツ項目には、クライアント・アプリケーションに対するレスポンス・モデルを生成するときにAssemblerが使用できる構成を指定します。コンテンツ管理者は、このコンテンツ構成を、エンド・ユーザーのコンテキストに関する一連のファクト、すなわちトリガーに関連付けることができます。トリガーの基準には、次の要素を含めることができます。

- ユーザーの検索語または絞り込み選択内容(ユーザーのナビゲーション状態)
- 過去の購買傾向や地理的な場所など、ユーザーの特性(ユーザー・セグメント・トリガー)

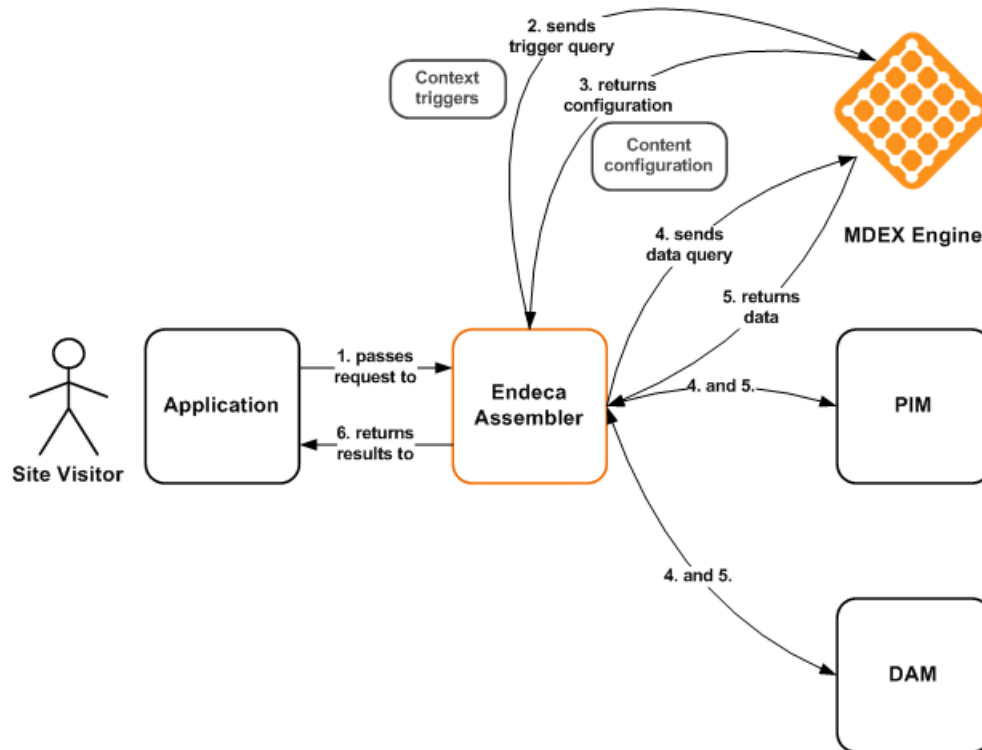
コンテンツ項目(コンテンツ構成と関連するコンテキスト・トリガーも含む)は、Endeca Configuration Repositoryで管理され、問合せ時に取得されるEndecaレコードとしてMDEX Engineに公開されます。



実行時の問合せ処理フロー

エンド・ユーザーがEndecaアプリケーションにアクセスすると(Webクライアントを通じて、またはネイティブ・モバイル・アプリケーションとして)、アプリケーションはEndeca Assemblerにリクエストを送信します。Assemblerはこのリクエストから、ユーザーのコンテキストに関する情報を抽出し、トリガーによってMDEX Engineに問い合せて、適切なコンテンツ構成を取得します。

コンテンツ構成に基づいて、AssemblerはMDEX Engineに対してさらに(検索およびナビゲーションを、またはレコード詳細情報を)問い合せます。あるいは、製品情報管理システムやデジタル・アセット管理システムに対して、追加のデータおよびコンテンツを問い合せます。結果は1つのレスポンス・モデルとして集約され、それがクライアント・アプリケーションに返されます。



コンテンツ項目とカートリッジについて

コンポーネント・モデルは、構成可能なコンテンツ項目で構成されます。

コンテンツ項目は、プロパティのマップまたはキー/値ペアです。このとき、キーはプロパティ名を表す文字列、値は任意のプリミティブ型(String、Boolean、List、Mapなど)または他のコンテンツ項目です。これによって、コンテンツ項目を別のコンテンツ項目の内部にネストすることができ、Webページとそのコンポーネントすべての構造を表すコンテンツ・ツリーが形成されます。

アプリケーション内のコンテンツ項目は、大きく分けて次の2種類です。

- コンテナ・コンテンツ項目は、主要な構造コンポーネントです。アプリケーションによってレンダリングされるコンテンツの論理的な(ときには物理的な)構造を定義します。トップレベルのコンテナは通常、Webページを表し、他のコンテンツ項目(リーフ・コンテンツ項目または、場合によっては他のコンテナ)を含むセクションがあります。Webアプリケーションでは、これらのセクションがレイアウトおよびレンダリングに関する前提を持つページ上の領域に対応します。他のアプリケーションでは、セクションは関連コンポーネントの論理的なグループ分けを表します。
- リーフ・コンテンツ項目は通常、機能コンポーネントです。アプリケーションで表示されるコンテンツについての情報を含み、通常はGuided Navigationコンポーネント、スポットライト、結果リストなど特定の機能の構成がカプセル化されています。リーフ・コンテンツ項目を、カートリッジとも言います。

1つのページに直接カートリッジが含まれること(その場合、カートリッジの構成はページとともにトリガーされる)も、ページに動的なスロットが含まれることもあります。このスロットは、カート

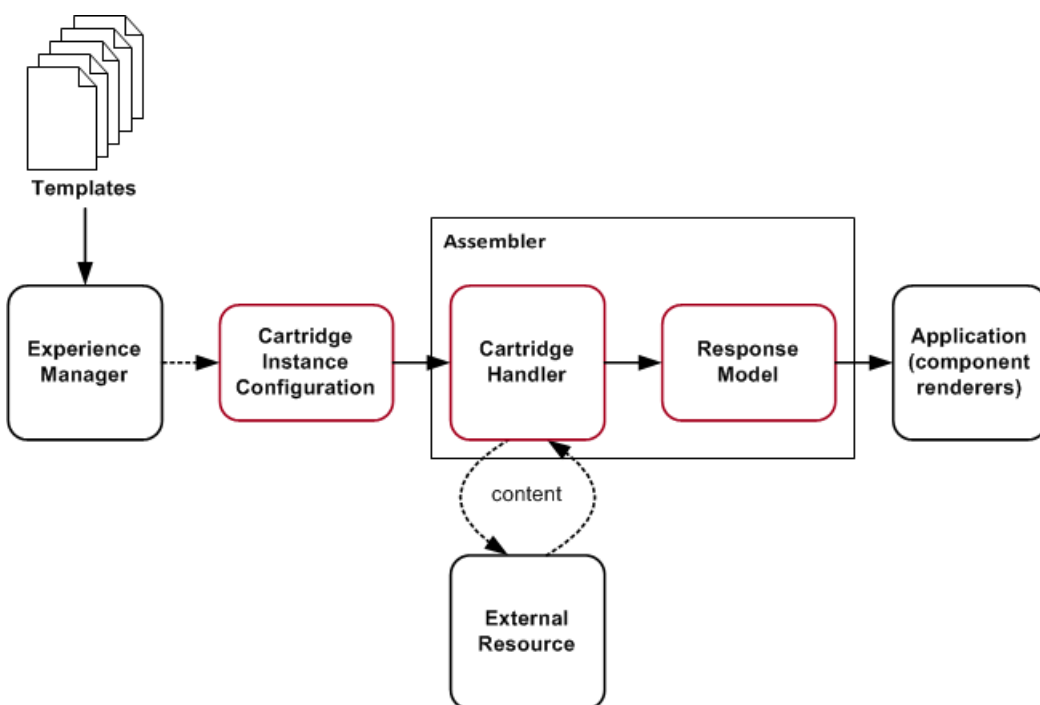
リッジのプレースホルダとして機能し、表示されるページとは独立してトリガーすることができます。

カートリッジの構造

カートリッジは、コンテンツ管理者がページで表示できる機能コンポーネントです。

カートリッジには、主に次のような性質があります。

- カートリッジ・インスタンス構成。通常は、コンテンツ管理者がExperience Managerを使用し作成します。
- カートリッジ・ハンドラ。関連機能の処理ロジックを含むAssemblerコンポーネントです。
- レスポンス・モデル。Assemblerから、レンダリングするアプリケーションに返されます。



カートリッジの構成モデルを定義するのがカートリッジ・テンプレートです。これには、構成可能なプロパティと、コンテンツ管理者がExperience Managerで値を指定するときのインタフェースが記述されます。カートリッジは通常、カートリッジの機能に固有名構成オプションがあります。たとえば、Dimension Navigationカートリッジで表示される微調整の数(およびその表示順序)、Spotlightカートリッジに移行するレコード、Results Listカートリッジのソート・オプションとページごとのレコードなどです。

1. 問合せ時に、カートリッジ・プロパティに構成された値がAssemblerへの入力になります。

Discover Electronicsリファレンス・アプリケーションには、Endecaのコア機能を示すサンプル・テンプレートまたはカートリッジがいくつか含まれています。これを独自のアプリケーションに合せてカスタマイズできるほか、独自のテンプレートを記述して構成オプションを追加または削除する、あるいはAssemblerまたはフロントエンド・アプリケーションに追加の情報を渡すことができます。

2. 問合せ時に、**Assembler**は適切なカートリッジ・ハンドラを呼び出して、カートリッジ構成を処理します。

コアのカートリッジ・ハンドラは、カートリッジをトリガーする初期リクエスト・コンテキストに関する情報にもアクセスします。カートリッジ・ハンドラは、この構成に基づいてレスポンス・モデルを生成する機能もはたします。ほとんどの場合、これには外部リソースからのコンテンツのフェッチも伴います。

構成モデルがレスポンス・モデルと同じ場合、カートリッジ・ハンドラは必要ありません。**Assembler**のデフォルト動作では、構成プロパティがレスポンス・モデルにまで渡されます。

3. **Assembler**は、アプリケーションで対応するレンダラにレスポンス・モデルを渡します。

ベスト・プラクティスとして、アプリケーションには複数のモジュラー・レンダラを含めるようにします。それぞれが、特定のカートリッジまたはカートリッジ・タイプの出力モデルを処理します。**Discover Electronics**アプリケーションには、各カートリッジを処理する参照JSPページが含まれます。これらのレンダラは、スタイリングなどによるアプリケーションのカスタマイズを目的に更新されます。

Discover Electronicsアプリケーションについて

Oracle Endeca Tools and Frameworksパッケージには、再利用とカスタマイズが可能なカートリッジのセットを提供するリファレンス・アプリケーションが含まれており、独自のアプリケーションを開発する出発点として利用できます。

Discover Electronicsアプリケーションは、全機能を備えたJava Webアプリケーションであり、次の領域で開発上のベスト・プラクティスを示します。

- Experience Managerの構成(対応するDiscoverデータ・プロジェクトを介して)
- **Assembler**およびカートリッジ・ハンドラの構成
- コントローラ・アーキテクチャとレンダラ・ディスパッチのメカニズム

第 4 章

WindowsでのOracle Endeca Commerceのインストール

WindowsでのMDEX Engineのインストール

インストーラ・プログラムを実行するユーザーに管理者権限がある場合には、マシン全体のインストール(ステップ6)を実行することをお薦めします。変更の必要がある場合を除き、インストールはデフォルト設定で進めてください。

WindowsにMDEX Engineをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Software Delivery Cloudから、MDEX Engineパッケージをダウンロードします。
2. MDEX Engineパッケージをローカル・ディレクトリに抽出します。
抽出したインストーラ・ファイルは、mdex_<version>_x86_64pc-win32.exeという名前です。
3. インストーラ・ファイルmdex_<version>_x86_64pc-win32.exeをダブルクリックして、ウィザードを起動します。
4. 「**Next**」をクリックすると、インストール・プロセスが開始されます。
5. 「**Copyright and Legal**」画面で、「**Next**」をクリックします。
6. 「**Select Program Folder**」画面で、次のようにします。
 - 「**Program Folder**」は、デフォルト値のままにします。
 - 「**Anyone who uses this computer (all users)**」ボタンを選択します。
 - 「**Next**」をクリックします。
7. インストール先を選択するか、デフォルトのインストール先であるC:\Endeca\MDEX\<version>をそのまま使用し、「**Next**」をクリックします。
8. 「**Finish**」をクリックします。

WindowsでのPlatform Servicesのインストール

この手順では、Endecaサービスを実行するユーザー名を指定する必要があります。このユーザー名は、MDEX Engineのインストールを実行した管理者ユーザーと同じでなければなりません。endecaユーザーである必要はありません。ユーザー名をNULLにしたり、パスワードを空白にしたりすることはできません。インストールの完了後は、マシンの再起動が必要です。

ここでも、変更の必要がある場合を除き、インストールはデフォルト設定で進めてください。

「**Custom Setup**」画面で、Endeca Control Systemはインストールしないでください。

WindowsにEndeca Platform Servicesをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Software Delivery Cloudから、Endeca Platform Servicesパッケージをダウンロードします。
2. Endeca Platform Servicesパッケージをローカル・ディレクトリに抽出します。
抽出したインストーラ・ファイルは、platformservices_<version>_x86_64pc-win32.exe という名前です。
3. インストーラ・ファイルをダブルクリックして、ウィザードを起動します。
4. 「**Endeca Platform Services Setup Wizard**」画面が開いたら、「**Next**」をクリックします。
5. 著作権情報を読み、「**Next**」をクリックします。
6. 「**Select Installation Type**」画面で「**Anyone who uses this computer (all users)**」を選択し、「**Next**」をクリックします。
7. 「**Destination folder**」画面でインストール先を選択するか、デフォルトのインストール・ディレクトリであるC:\Endeca\PlatformServicesをそのまま使用し、「**Next**」をクリックします。

Endecaソフトウェアを、空白を含む名前のディレクトリにはインストールできません。

8. 「**Custom Setup**」画面は、デフォルトの選択内容のままにして、「**Next**」をクリックします。
Endeca Control Systemはインストール対象として選択されていないことを確認してください。
これで問題ありません。新しいアプリケーションには必要ありません。
9. 「**Endeca Services Information**」画面で、Endeca HTTP Serviceを起動するときに使用するユーザー名、ドメイン名、パスワードを入力し、「**Next**」をクリックします。
10. 「**Endeca Application Controller Service Information**」画面で次のようにしてから、「**Next**」をクリックします。
 - 「**EAC service port**」はデフォルトの8888のままにします。
 - 「**EAC service shutdown port**」はデフォルトの8090のままにします。
 - MDEX Engineルート・ディレクトリの絶対パスを指定します(C:\Endeca\MDEX\6.4.0など)。
11. 「**Ready to install the program**」画面で、ここまでの各画面で選択した設定を確認して、「**Install**」をクリックします。
12. インストールが完了したら、「**Finish**」をクリックしてウィザードを終了します。
13. 「**Yes**」をクリックしてコンピュータを再起動します。
再起動すると、Endecaの環境変数(ENDECA_ROOTなど)が正しく設定され、Endeca HTTP Serviceが開始されます。

WindowsでのTools and Frameworksのインストール

Oracle Endeca Tools and Frameworksをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Software Delivery Cloudから、Tools and Frameworksパッケージをダウンロードします。
2. Tools and Frameworksパッケージをローカル・ディレクトリに抽出します。
ダウンロードしたファイルに応じて、次のいずれかのインストール・ファイルが生成されます。
 - gs-<version>-<platform>.zip (Oracle Endeca Guided Search)
 - xmgr-<version>-<platform>.zip (Oracle Endeca Experience Manager)
3. インストール・ファイルをC:\Endecaに抽出します。
アーカイブがC:\Endeca\ToolsAndFrameworks\<version>に抽出されます。これが、Tools and Frameworksのインストール・ディレクトリです。
4. Windowsエクスプローラで、Tools and Frameworksのインストール・ディレクトリにナビゲートします。
5. server\bin\install_service.batをダブルクリックして、Endeca Tools Serviceをインストールします。
これでEndeca Tools Serviceが作成され、現在のユーザー・プロファイルで実行するように構成されます。install_service.batとEndeca Tools Serviceを実行するユーザーには、管理者権限が必要です。
6. 次の手順で、Endeca Tools Serviceを起動します。
 - Microsoftの「サービス」コンソールを選択します。
 - サービスのリストから「Endeca Tools Service」を選択します。
 - 「サービスの開始」をクリックします。

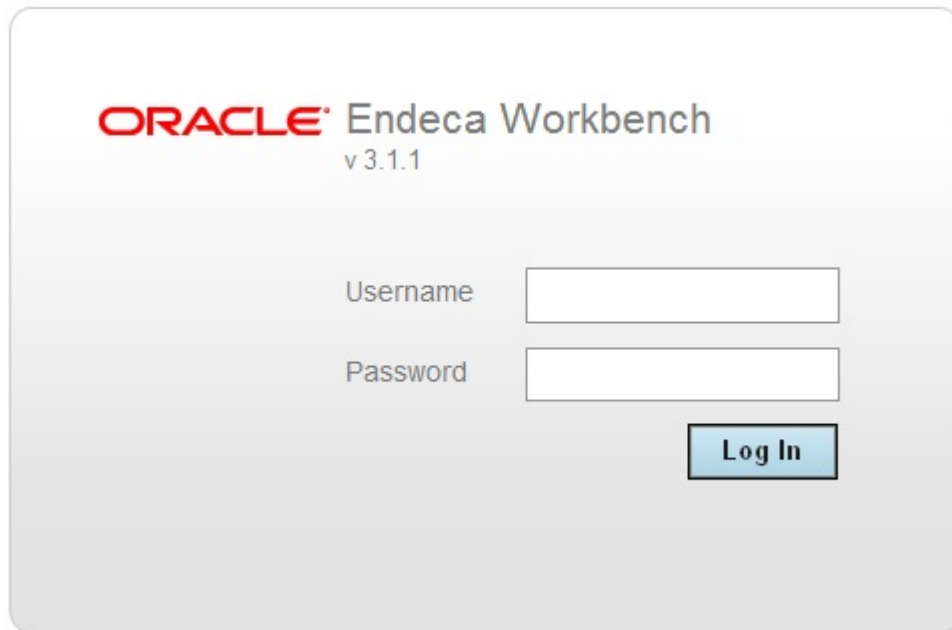
Tools and Frameworksのインストールの確認

インストールをチェックするには、Oracle Endeca WorkbenchをWebブラウザにロードするのが最も簡単です。これで、Endeca Toolsサービスが実行中であり、Workbenchを使用できることがわかります。

Tools and Frameworksのインストールを確認するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザを起動します。
2. URLに、マシン名とWorkbenchのデフォルトのポート(8006)を指定します。
例: http://localhost:8006/

Workbenchのログイン画面が表示されます。次のような画面です。



WindowsでのCASのインストール

ここでも、変更の必要がある場合を除き、インストールはデフォルト設定で進めてください。

WindowsにCASをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Software Delivery Cloudから、Content Acquisition Systemパッケージをダウンロードします。
2. Content Acquisition Systemパッケージをローカル・ディレクトリに抽出します。
抽出したインストーラ・ファイルは、cas-*<version>*_x86_64pc-win32.exeという名前です。
3. インストーラ・ファイルcas-*<version>*_x86_64pc-win32.exeをダブルクリックして、ウィザードを起動します。
4. 「**Next**」をクリックすると、インストール・プロセスが開始されます。
5. 「**Important Information**」画面で著作権を確認し、「**Next**」をクリックします。
6. 「**Custom Setup**」画面で両方のプログラム機能を選択し、「**Next**」をクリックします。
7. 「**Destination Folder**」画面で、デフォルトのインストール先であるC:\Endeca\CASをそのまま使用し、「**Next**」をクリックします。
8. 「**Endeca CAS Service Information**」画面で、CASを実行する管理者ユーザーのユーザー名、パスワード、ドメイン情報を指定し、「**Next**」をクリックします。
9. 「**CAS Server Information**」画面で、CAS Serverポート(8500)とCAS Serverシャットダウン・ポート(8506)をどちらもデフォルト値のままにします。
10. 「**Completing the Setup Wizard**」画面で、「**Next**」をクリックします。

CAS Serviceが自動的に起動します。

CASのインストールの確認

インストールをチェックするには、Oracle Endeca WorkbenchをWebブラウザで開き、「**Data Sources**」オプションが表示されることを確認するのが最も簡単です。これで、Endeca CAS Serviceが実行中であり、Workbenchの拡張機能としてCAS Consoleを使用できることがわかります。

CASのインストールを確認するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザを起動します。
2. URLに、マシン名とWorkbenchのデフォルトのポート(8006)を指定します。
例: `http://localhost:8006/`
3. **Username**にadmin、**Password**にadminを使用して、Workbenchにログインします。

Workbenchの「Home」画面に、「**Data Sources**」オプションが表示されます。これで、CAS Consoleがインストールされ実行されていることがわかります。

Developer Studioのインストール

Developer Studioは、Windowsでのみ使用できます。

Developer Studioをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Software Delivery Cloudから、Endeca Developer Studioパッケージをダウンロードします。
2. Endeca Developer Studioパッケージをローカル・ディレクトリに抽出します。
抽出したインストーラ・ファイルは、`dstd_version_i86pc-win32.exe`という名前です。
3. インストーラ・ファイル`dstd_version_i86pc-win32.exe`をダブルクリックします。
4. 「**Next**」をクリックすると、インストール・ウィザードが開始されます。
5. 「Copyright and legal」画面で、「**Next**」をクリックします。
6. 「License Agreement」画面で「**I accept the terms in the license agreement**」を選択し、「**Next**」をクリックします。
7. 「Destination Folder」画面で、デフォルトのインストール先をそのまま使用するか、「**Change**」をクリックして、Endecaソフトウェアをインストールするディレクトリを指定します。デフォルトのディレクトリ(`C:\Endeca\DeveloperStudio`)を使用することをお勧めします。完了したら、「**Next**」をクリックします。
8. 「**Ready to Install the Program**」画面で、「**Install**」をクリックします。
9. インストールが完了したら、「**Finish**」をクリックします。

Developer Studioのインストールの確認

プログラムを起動してみるだけで、インストールを確認できます。この時点で、Developer Studioプロジェクトを開く必要はありません。

Developer Studioのインストールを確認するには、次の手順を実行します。

Windowsの「スタート」メニューから、「すべてのプログラム」 > 「**Endeca**」 > 「**Developer Studio**」 > 「**Developer Studio 6.1.3**」を選択します。

Oracle Endeca Developer Studioが起動し、空の「Project Explorer」ウィンドウが表示されます。
(後でDeveloper Studioを使用して、Endecaインスタンス構成を変更します。)

第 5 章

UNIXでのOracle Endeca Commerceのインストール

UNIXでのMDEX Engineのインストール

ソフトウェアは、自己解凍形式のTARファイルおよびインストール・スクリプトとして配布されます。この手順では、インストールのターゲット・ディレクトリが/usr/localであると想定します。

MDEX Engineをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Software Delivery Cloudから、MDEX Engineパッケージをダウンロードします。
2. MDEX Engineパッケージをローカル・ディレクトリに抽出します。この手順では、場所を/downloads/[ARCH_OS]と想定します。
抽出したインストール・ファイルは、mdex_<version>_[ARCH_OS].shという名前です。
3. MDEX Engineのインストール先を決定します。/usr/local/endecaにインストールすることをお勧めします。
4. ターゲット・インストール・ディレクトリに書き込み権限がある(読取り専用でない)ことと、自分がそのディレクトリに対して書き込み権限を持っていることを確認します。
これらの権限が設定されていない場合は、インストール・スクリプトが実行されません。
5. 前述の場所を使用すると想定し、次のコマンドでインストール・スクリプトを実行します。

```
/downloads/[ARCH_OS]/mdex_<version>_[ARCH_OS].sh --target /usr/local
```
6. 著作権と法律に関する情報が表示されます。最後までスクロールします。
インストールのパッケージが展開され、連続的に表示されるドットで進行状況がわかります。
パッケージの展開には、数分間かかることもあります。
インストールが終わると、mdex_setupスクリプトを実行するよう求められます。これは、ENDECA_MDEX_ROOT環境変数を設定するスクリプトです。
7. mdex_setupを実行します。
使用するシェルに応じて、次のいずれかのスクリプトが実行されます。

```
source endeca/MDEX/<version>/mdex_setup_sh.ini
```


または

```
source endeca/MDEX/<version>/mdex_setup_csh.ini
```

mdex_setupスクリプトは、MDEX/<version> をポイントする環境変数ENDECA_MDEX_ROOTを設定します。このスクリプトによって、ユーティリティのディレクトリと、MDEX Engineバイナリも検索パスに追加されます。

UNIXでのPlatform Servicesのインストール

ソフトウェアは、自己解凍形式のTARファイルおよびインストール・スクリプトとして配布されます。この手順では、インストールのターゲット・ディレクトリが/usr/localであると想定します。

UNIXにEndeca Platform Servicesをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Software Delivery Cloudから、Endeca Platform Servicesパッケージをダウンロードします。
2. Endeca Platform Servicesパッケージをローカル・ディレクトリに抽出します。この手順では、場所を/downloads/[ARCH_OS]と想定します。抽出したインストール・ファイルの名前は、次のとおりです。
 - Intel Linux 64版の場合: platformservices_<version>_x86_64pc-linux.sh
 - SPARC Solarisの場合: platformservices_<version>_sparc_64-solaris.sh
3. --targetフラグを指定してインストール・スクリプトを実行します。これは、ターゲット・インストール・ディレクトリの絶対パスを指定するフラグです。/usr/local/endecaにインストールすることをお勧めします。

例:

```
./platformservices_612_x86_64pc-linux.sh --target /usr/local/endeca
```

4. 著作権と法律に関する情報が表示されます。最後までスクロールします。
インストールのパッケージが展開され、連続的に表示されるドットで進行状況がわかります。
パッケージの展開には、数分間かかることもあります。
5. EACサービスがリスニングするポートを入力します。デフォルトは**8888**ですが、その数字をプロンプトに従って明示的に入力する必要があります。
6. EACサービスのシャットダウン・ポートを入力します。デフォルトは**8090**ですが、その数字をプロンプトに従って明示的に入力する必要があります。
7. Endeca Control System JCDポートを入力するか、Endeca Control Systemを使用する予定がない場合には何も入力しません。デフォルトは**8088**です。
8. **Y**を入力し、Application Controller Agentを含むApplication Controllerを実行するようにこのホストを構成します。
9. MDEX Engineルート・ディレクトリの場所(絶対パス)を指定します
(/usr/local/endeca/MDEX/6.4.0など)。
10. **Y**を入力し、実装リファレンスをインストールします。
環境変数の設定についてリマインダ・メッセージが画面に表示されたら、インストールは完了です。
11. インストールが完了したら、installerスクリプトを実行してPlatform Services環境変数(ENDECA_ROOTなど)を設定し、内部的に使用される追加の変数も設定します。

使用するシェルに応じて、次のいずれかのスクリプトが実行されます。

```
source /usr/local/endeca/workspace/setup/installer_sh.ini
```

または

```
source /usr/local/endeca/workspace/setup/installer_csh.ini
```

インストールが終わって環境変数を設定したら、Endeca HTTP Serviceを起動します。
endeca/PlatformServices/6.1.2/tools/server/binディレクトリに移動し、startup.sh
スクリプトを実行します。(このサービスの制御方法は、*Oracle Endeca Application Controller Guide*
を参照してください。)

UNIXでのTools and Frameworksのインストール

ソフトウェアは、TARファイルおよびインストール・スクリプトとして配布されます。

Oracle Endeca Tools and Frameworksをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Software Delivery Cloudから、Tools and Frameworksパッケージをダウンロードします。
2. Tools and Frameworksパッケージをローカル・ディレクトリに抽出します。
ダウンロードしたファイルに応じて、抽出されたインストール・ファイルの名前は次のいずれかです。
 - ToolsAndFrameworks-<version>-linux-gs.tar.gz (Oracle Endeca Guided Search)
 - ToolsAndFrameworks-<version>-linux-xmgr.tar.gz (Oracle Endeca Experience Manager)
3. インストール・ファイルを/usr/local/endecaに抽出します。
アーカイブは/usr/local/endeca/ToolsAndFrameworks/<version>に抽出されます。これが、Tools and Frameworksのインストール・ディレクトリです。
4. server/binディレクトリにナビゲートします。
5. startup.shを実行します。

このスクリプトは環境変数を設定し、Endeca Tools Serviceを背景プロセスとして起動します。
サービスは、Oracle Endeca Workbenchと多数のサンプル・リファレンス・アプリケーションを
ホストしています。

インストール後のEndeca Tools Serviceを管理するには、次の手順を実行します。

- startup.shスクリプトでサービスを開始します。
- shutdown.shスクリプトでサービスを停止します。

Tools and Frameworksのインストールの確認

インストールをチェックするには、Oracle Endeca WorkbenchをWebブラウザにロードしてみるのが最も簡単です。これで、Endeca Toolsサービスが実行中であり、Workbenchを使用できることがわかります。

Tools and Frameworksのインストールを確認するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザを起動します。
2. URLに、マシン名とWorkbenchのデフォルトのポート(8006)を指定します。
例: `http://localhost:8006/`

Workbenchのログイン画面が表示されます。次のような画面です。

UNIXでのCASのインストール

ソフトウェアは、自己解凍形式のTARファイルおよびインストール・スクリプトとして配布されます。

UNIXにCASをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Software Delivery Cloudから、CASパッケージをダウンロードします。
2. CASパッケージをローカル・ディレクトリに抽出します。この手順では、場所を `downloads/<arch-OS>` と想定します。インストール・ファイルの名前は、次のとおりです。
`- cas-<version>_<ARCH_OS>.sh`
3. CASのインストール先を決定します。`/usr/local/endeca`にインストールすることをお勧めします。
4. 前述の場所を使用すると想定し、次のコマンドでインストール・スクリプトを実行します。

```
downloads/arch-OS/cas-version_ARCH-OS.sh --target /usr/local [--endeca_tools_root full path to the Endeca Tools root directory]
[--endeca_tools_conf full path to the Endeca Tools /conf directory]
```
5. CAS Serviceのポートを入力します。

6. CAS Serviceのシャットダウン・ポートを入力します。
7. ENDECA_TOOLS_ROOTまたはENDECA_TOOLS_CONFが環境に設定されていない場合は、インストーラでその値の入力を求められます。
8. CAS Serverの完全修飾ホスト名を入力します。

インストール後に、次のようにします。

- Endeca Tools Serviceを再起動します。
- CAS Serviceを起動するには、`/usr/local/endeca/CAS/<version>/bin`にナビゲートし、`cas-service.sh`というスクリプトを実行します。

CASのインストールの確認

インストールをチェックするには、Oracle Endeca WorkbenchをWebブラウザで開き、「**Data Sources**」オプションが表示されることを確認するのが最も簡単です。これで、Endeca CAS Serviceが実行中であり、Workbenchの拡張機能としてCAS Consoleを使用できることがわかります。

CASのインストールを確認するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザを起動します。
2. URLに、マシン名とWorkbenchのデフォルトのポート(8006)を指定します。
例: `http://localhost:8006/`
3. **Username**にadmin、**Password**にadminを使用して、Workbenchにログインします。

Workbenchの「Home」画面に、「**Data Sources**」オプションが表示されます。これで、CAS Consoleがインストールされ実行されていることがわかります。

第 6 章

リファレンス・アプリケーションのデプロイ

Oracle Endeca Guided Searchのインストールが完了すると、リファレンス・アプリケーションをデプロイしてテスト・データ・セットを処理し、Endecaのフロントエンド・アプリケーションで調べることができます。

Discover Electronics リファレンス・アプリケーションのデプロイ

Discover Electronics リファレンス・アプリケーションをデプロイするには、Deployment Template を実行してから、アプリケーションの操作スクリプト、たとえばinitialize_services、load_baseline_test_data、baseline_updateなどを実行します。この手順で、Deployment Templateがreference\discover-dataにあるソース・データをC:\Endeca\apps\Discover ディレクトリにコピーし、Forgeがベースライン更新の一環としてソース・データを処理します。デプロイメント・プロセスで、オーサリング・アプリケーションとライブ・アプリケーションが作成されます。

Discover Electronics リファレンス・アプリケーションをデプロイする前に、次の手順を実行します。

- Endeca Tools Serviceが実行されていることを確認します。
- デプロイされるEndecaアプリケーション用のディレクトリも作成する必要があります。たとえば、Windowsの場合はC:\Endeca\apps、UNIXの場合は/usr/local/endeca/appsなどです。

Discover Electronics リファレンス・アプリケーションをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. Deployment Templateを実行し、アプリケーションをプロビジョニングします。
 - a) コマンド・プロンプトまたはコマンド・シェルを開きます。
 - b) C:\Endeca\ToolsAndFrameworks\<version>\deployment_template\binディレクトリ(Windowsの場合)、または /usr/local/endeca/ToolsAndFrameworks/<version>/deployment_template/bin (UNIXの場合)にナビゲートします。
 - c) --appフラグと、deploy.xmlディスクリプタ・ファイルのパスを指定する引数を指定して、deployスクリプトを実行します。

例:

```
C:\Endeca\ToolsAndFrameworks\3.1.1\deployment_template\bin>deploy --app C:\Endeca\ToolsAndFrameworks\3.1.1\reference\discover-data\deploy.xml
```

d) Platform Servicesのインストール・ディレクトリを確認します。

 注: deploy.xmlファイルへのパスの指定が正しくない場合、Deployment Templateはレガシー・データセットのデプロイを続行します。Platform Servicesディレクトリの確認後、次のメッセージが表示されていることを確認してください。

```
The following app modules were specified on the command line argument:
<Endeca Directory>/ToolsAndFrameworks/<version>/reference/discover-data/deploy.xml
```

e) yを入力し、ベース・アプリケーションをインストールします。

f) アプリケーション名としてDiscoverと指定します。

 注: アプリケーション構成はこの名前によって異なるので、大/小文字が重要です。

g) Endecaアプリケーション用に以前に作成したアプリケーション・ディレクトリを指定します。

h) 後続のプロンプトに対しては、デフォルトのオプションを使用することをお勧めします。デフォルトを使用する場合でも、「EAC Port」を指定する必要があります。ポート値に対する後続のプロンプトで、[Enter]を押してデフォルト値をそのまま使用します。

2. 新しくデプロイしたアプリケーションのcontrolディレクトリまでナビゲートします。

これはアプリケーション・ディレクトリ下位にあります。たとえば、Windowsの場合はC:\Endeca\apps\Discover\controlです。

3. アプリケーションを初期化し、ベースライン・データとテンプレートをロードします。

a) initialize_servicesスクリプトを実行します。

このスクリプトは、次の処理を行います。

- Endeca Application Controllerでアプリケーションをプロビジョニングします。
- サンプル・テンプレートと構成をアプリケーションにアップロードします。
- サンプル・コンテンツとメディアをアプリケーションにアップロードします。

b) load_baseline_test_dataスクリプトを実行します。

c) baseline_updateスクリプトを実行します。

d) promote_contentスクリプトを実行します。

4. Discover Electronicsリファレンス・アプリケーションが実行中であることを確認します。

- <http://localhost:8006/discover-authoring>にナビゲートし、オーサリング・バージョンのDiscoverアプリケーションを表示します。
- <http://localhost:8006/discover>にナビゲートし、ライブ・バージョンのDiscoverアプリケーションを表示します。

第 7 章

次のステップ

この時点で、独自のEndeca実装を構築できます。ごく大まかに言えば、まずデプロイメント・テンプレートを実行してパイプライン、ディレクトリ構造および制御スクリプトを作成します。次に、ForgeまたはCASを使用して独自のソース・データをパイプラインに取り込み、Endeca Assemblerを使用してフロントエンド・アプリケーションを作成します。

次の開発タスクに必要なドキュメントの参照先

ここでは、主な実装タスクごとに関連のあるOracle Endeca Commerceのドキュメントをリストします。

参照する内容	参照先ドキュメント
Endecaの基本コンセプト Basic Endeca Concepts	- 『Oracle Endeca Commerce コンセプト・ガイド』 - <i>Endeca Glossary</i>
Pipeline creation	- <i>Tools and Frameworks Deployment Template Usage Guide</i> - <i>Platform Services Forge Guide</i> - <i>CAS Developer's Guide</i> - <i>Oracle Endeca Developer Studio Help</i>
Data incorporation	CASドキュメント・セット。特に次のマニュアル: - <i>CAS Developer's Guide</i> - <i>CAS Console for Oracle Endeca Workbench Help</i>
Front end-application development	Endeca AssemblerとExperience Managerの詳細: - <i>Assembler Application Developer's Guide</i> - <i>Experience Manager Cartridge Developer's Guide</i>

参照する内容	参照先ドキュメント
	MDEX EngineとEndeca Presentation APIの詳細: - <i>MDEX Engine Basic Development Guide</i> - <i>MDEX Engine Advanced Development Guide</i>
Deployment and operational tasks デプロイと操作タスク	- <i>Tools and Frameworks Deployment Template Usage Guide</i> - 『Oracle Endeca Commerce管理者ガイド』

付録 A

ドキュメント・リソースの詳細リスト

この項では、Oracle Endeca Commerceの各コンポーネントに関連するドキュメントについて説明します。製品のインストールに必須なドキュメントのみを紹介していますが、Endecaの全ドキュメントはOracle Technology Networkで個別に、またはドキュメント・パッケージ全体として、参照またはダウンロードすることができます。

Endecaの全般ドキュメント

次の表に、複数のEndecaパッケージに共通して該当するドキュメントを示します。

タイトル	説明
『Oracle Endeca Commerce スタート・ガイド』	構成シナリオに関する情報も含めた、Endecaコンポーネントの概要。
Oracle Endeca Commerce Compatibility Matrix	Endecaコンポーネントのバージョン互換性に関する情報のまとめ。
『Oracle Endeca Commerce コンセプト・ガイド』	Oracle Endeca Commerceの概要。Endecaアプリケーションの基礎となる主な概念について説明しています。
『Oracle Endeca Commerce 管理者ガイド』	Oracle Endeca Guided Searchに基づいて作成されたアプリケーションの管理とメンテナンスに伴うタスクについて説明しています。Endeca Servicesチームが実行する作業と、システム管理者がメンテナンス時に直面する問題の間のギャップを埋めます。
Oracle Endeca Commerce Glossary	Endecaの用語と定義に関するリファレンス。
Oracle Endeca Commerce Third-Party Software Usage and Licenses	Endecaに採用されているサードパーティ・ソフトウェア・パッケージの著作権、ライセンス契約、免責事項に関する情報が記載されています。

MDEX Engineのドキュメント

次の表に、MDEX Engineパッケージをサポートするドキュメントを示します。

タイトル	説明
<i>MDEX Engine Analytics Guide</i>	Endeca Analyticsの概要を紹介し、AnalyticsとChartingのAPI、日付および時刻のプロパティ、および主要コンポーネントについて説明します。
<i>MDEX Engine Basic Development Guide</i>	レコード、ディメンション、および基本的な検索機能の操作に関する情報が記載されています。
<i>MDEX Engine Advanced Development Guide</i>	Endeca Query Language (EQL)、レコード・フィルタ、一括エクスポート、スペリング補正、フレーズング、関連性ランキング、動的ビジネス・ルールなどのトピックを扱っています。
<i>MDEX Engine Installation Guide</i>	Endeca MDEX Engineの概要と詳細なインストール手順を示し、Language Packのライセンス・キーを構成する方法を説明します。WindowsとLinux/UNIX両方のシステム要件とインストール手順についても扱います。
<i>MDEX Engine Migration Guide</i>	旧バージョンのEndecaソフトウェアからの移行に関する情報が記載されています。
<i>MDEX Engine Partial Updates Guide</i>	Endecaアプリケーションにおける部分的なアップデートの準備と実行について説明するガイドです。
<i>MDEX Engine Performance Tuning Guide</i>	Endeca MDEX Engineのパフォーマンスに対する監視とチューニングについてのガイドラインです。関連する操作上の問題を解決するときのヒントも紹介されています。
<i>MDEX Engine Web Services and XQuery Developer's Guide</i>	WebサービスとXQuery for Endecaの使用方法について説明しています。WebサービスとXQuery for Endecaは、Endecaアプリケーションの開発者にとって柔軟で拡張性の高い、標準準拠の問合せ処理ソリューションです。
<i>MDEX Engine Release Notes</i>	このリリースに固有の変更点について、不具合修正や新機能などを詳細に説明しています。

Presentation APIのドキュメント

次の表に、Presentation APIパッケージをサポートするドキュメントを示します。

タイトル	説明
<i>Endeca Presentation APIs - Installation Instructions and Release Notes</i>	システム要件、インストール手順、移行手順、既知の問題など。(Presentation APIパッケージに個別のインストラクション・ガイドや移行ガイドはありません。)

タイトル	説明
<i>Presentation API for Java Reference (Javadoc)</i>	Endeca Presentation、Analytics、Charting APIのJavaリファレンス・ドキュメント。
<i>Presentation API for .NET Reference (HTMLヘルプ)</i>	Endeca Presentation、Analytics、Charting APIの.NETリファレンス・ドキュメント。
<i>Logging API for Java Reference (Javadoc)</i>	Endeca Logging APIのJavaリファレンス・ドキュメント。
<i>Logging API for .NET Reference (HTMLヘルプ)</i>	Endeca Logging APIの.NETリファレンス・ドキュメント。

Platform Servicesのドキュメント

次の表に、Platform Servicesパッケージをサポートするドキュメントを示します。

タイトル	説明
<i>Content Adapter Developer's Guide</i>	Endeca Content Adapter Development Kitを使用してJavaマニピュレータとコンテンツ・アダプタを作成する方法について説明しています。
<i>Control System Guide</i>	JCDサービスとの通信や制御スクリプトの実行を含め、Endeca Control Systemの使用方法について説明しています。
<i>Oracle Endeca Application Controller Guide</i>	Endeca Application Controllerを使用した実装の管理に伴うタスクについて説明しています。
<i>Forge Guide</i>	Forgeのパイプライン関連タスクなど、Endecaアプリケーションのバックエンド(インスタンス構成)の開発者に必要なリファレンスです。
<i>Log Server and Report Generator Guide</i>	Endeca Log ServerとReport Generatorの構成および実行方法について説明しています。
<i>Platform Services Installation Guide</i>	Endeca Platform ServicesソフトウェアとEndeca Document Conversion Moduleのインストール方法について説明しています。WindowsとLinux/UNIX両方のシステム要件とインストール手順についても扱います。
<i>Platform Services Migration Guide</i>	旧バージョンのEndecaソフトウェアからの移行に関する情報が記載されています。
<i>Relationship Discovery Guide</i>	Endeca Relationship Discoveryアプリケーションの作成に伴うタスクについて説明しています。Relationship Discoveryは、別途のライセンスが必要なモジュールです。
<i>Security Guide</i>	ユーザー認証の実装方法と、データを構成して適切な権限のあるユーザーのみにアクセスを限定する方法について説明しています。

タイトル	説明
<i>Data Foundry Expression Reference</i>	Developer Studioのレコード操作に使用する、Data Foundry式の言語について説明しています。
<i>Oracle Endeca Developer Studio Help</i>	プロパティ、ディメンション、パイプラインなどを含め、Endeca Developer Studioを使用してインスタンス構成のあらゆる観点を定義するためのヘルプ(コンテキスト依存ヘルプも含む)。
<i>Forge API Guide for Perl</i>	Developer StudioでPerlマニピュレータに組み込むことができるクラスおよびメソッドについて説明しています。パイプラインでPerlマニピュレータを使用すると、レコードを操作することができます。
<i>XML Reference</i>	Endeca Information Transformation LayerのXMLファイルとDTDファイルに含まれるXML要素について説明しています。
<i>API reference documentation (Javadoc と.NET API)</i>	Endeca Presentation、Logging、Analytics、Charting APIのリファレンス・ドキュメント。

Tools and Frameworksのドキュメント

次の表に、Tools and Frameworksパッケージをサポートするドキュメントを示します。

Tools and Frameworksの全般ドキュメント

タイトル	説明
<i>Tools and Frameworks Installation Guide</i>	Oracle Endeca Tools and Frameworksのインストール手順を扱っています。
<i>Tools and Frameworks Release Notes</i>	このリリースに固有の変更点について、不具合修正や新機能などを詳細に説明しています。

Oracle Endeca Workbenchのドキュメント

タイトル	説明
<i>Oracle Endeca Workbench Administrator's Guide</i>	このガイドでは、Oracle Endeca Workbenchを使用してEndeca実装を構成および管理する際のタスクと、Oracle Endeca Workbenchのインスタンス自体の管理について説明しています。

Endeca Assemblerのドキュメント

タイトル	説明
<i>Assembler Application Developer's Guide</i>	Content Assembler APIの使用法や、リファレンス・アプリケーションの概要など、カートリッジ(Endeca Experience

タイトル	説明
	Managerで使用する)を使用してアプリケーションを開発するプロセスについて説明しています。コミュニティ・タグ・ハンドラを使用したContent Assemblerの機能拡張についても説明しています。Java用のバージョンと.NET用のバージョンがあります。
<i>Experience Manager Cartridge Developer's Guide</i>	このガイドは、Oracle Endeca Experience Managerを使用する開発者が、特定のアプリケーションに対してEndeca Assemblerをカスタマイズまたは拡張することを想定しています。
<i>Experience Manager Editor Developer's Guide</i>	Experience Manager Extension SDKを使用してExperience Managerの拡張機能を開発する際の主なタスクについて説明しています。 このガイドは、読者がAssembler Application Developer's Guideをすでにお読みであり、Experience Manager in Workbenchにも習熟していることを前提にしています。
<i>Endeca Assembler API for Java Reference (Javadoc)</i>	Endeca Assembler APIのリファレンス・ドキュメント。 <installation path>\ToolsAndFrameworks\<version>\assembler\apidoc\assemblerを参照してください。
<i>Experience Manager Editor API Reference</i>	Experience Manager Editor SDKのサブセットであるExperience Manager Editor APIのリファレンス・ドキュメント。 <installation path>\ToolsAndFrameworks\<version>\editor_sdk\asdocを参照してください。

Deployment Templateのドキュメント

タイトル	説明
<i>Oracle Endeca Deployment Template Usage Guide</i>	Deployment Templateのディレクトリおよびスクリプト機能について説明し、開発者がプロジェクトのテンプレートを構成または拡張する必要がある場合についてタッチポイントを紹介しています。
<i>Deployment Template Module for Product Catalog Integration - Usage Guide</i>	このガイドは、Endeca Tools and Frameworksの一部としてインストールされるDeployment Template Module for Product Catalog Integrationのインストール、構成および実行方法について説明しています。このモジュールは、Oracle ATG Web Commerceなどの製品カタログ・システムからのデータを、Endeca検索アプリケーションに統合します。

検索エンジン最適化モジュールのドキュメント

タイトル	説明
<i>Sitemap Generator Developer's Guide</i>	Endeca Sitemap Generatorを紹介し、Endecaアプリケーションのサイトマップを生成する手順について説明しています。
<i>URL Optimization API Developer's Guide</i>	Endeca URL Optimization APIを利用するアプリケーションの開発に伴う主なタスクについて説明しています。
<i>URL Optimization API for Java Reference (Javadoc)</i>	URL Optimization APIのリファレンス・ドキュメント。 <installation path>\ToolsAndFrameworks\<version>\ assembler\apidoc\urlformatter-coreを参照してください。

Mobileのドキュメント

タイトル	説明
<i>Oracle Endeca for Mobile Getting Started Guide</i>	Oracle Endeca for Mobileアプリケーションの作成とカスタマイズについて手順を示しています。iPhoneおよびiPad用と、APIの構成用に各バージョンが用意されています。
<i>Release Notes (README)</i>	このリリースに固有の変更点について、不具合修正や新機能などを詳細に説明しています。

Content Acquisition System (CAS)のドキュメント

次の表に、Content Acquisition System (CAS)パッケージをサポートするドキュメントを示します。

タイトル	説明
<i>CAS Release Announcement</i>	このリリースの主な新機能について説明しています。
<i>CAS Quick Start Guide</i>	Endeca Content Acquisition System (CAS)の基本について説明し、CASにEndecaのインストール、マニピュレータの追加、データ・ソースのクロール、ForgeパイプラインでのEndecaレコードの処理といった高度なプロセスを案内しています。
<i>CAS Installation Guide</i>	Endeca CASソフトウェアのインストール方法について説明しています。WindowsとLinux/UNIX両方のシステム要件とインストール手順についても扱います。
<i>CAS Migration Guide</i>	CASコンポーネント・スイートの主な移行タスクについて説明しています。
<i>CAS Developer's Guide</i>	Endeca CAS Server、Component Instance Manager、Record Storeなども含めてEndeca Content Acquisition Systemの概要

タイトル	説明
	について説明しています。また、ファイル・システムとCMSクローलから収集したソース・データを利用するForgeパイプラインの作成方法についても説明しています。
<i>CAS Extension API Guide</i>	CAS Extension APIを使用してCAS拡張機能を実装、テスト、パッケージする方法について説明しています。
<i>CAS API Guide</i>	Endeca CAS Server API、Component Instance Manager API、Record Store APIに関するリファレンス・ガイドです。
<i>CAS Console Help</i>	ファイル・システム、Documentumリポジトリ、CAS Console for Endeca Workbenchを使用するその他のCMSリポジトリなど各種のデータ・ソースの管理に伴うタスクについて説明しています。
<i>Web Crawler Guide</i>	Endeca Web Crawlerの構成と、Endeca Web Crawlerを使用してWebサイトからソース・データを収集するクロールの実行に伴う主なタスクについて説明しています。
<i>CAS Release Notes</i>	このリリースに固有の変更点について、不具合修正や新機能などを詳細に説明しています。

Developer Studioのドキュメント

次の表に、Developer Studioパッケージをサポートするドキュメントを示します。

タイトル	説明
<i>Oracle Endeca Developer Studio Installation Guide</i>	Developer Studioの概要を紹介し、システム要件とインストール手順について説明しています。
<i>Oracle Endeca Developer Studio Help</i>	プロパティ、ディメンション、パイプラインなどを含め、Endeca Developer Studioを使用してインスタンス構成のあらゆる観点を定義するためのヘルプ(コンテキスト依存ヘルプも含む)。
<i>Data Foundry Expression Reference</i>	Developer Studioのレコード操作に使用する、Data Foundry式の言語について説明しています。
<i>Forge API Guide for Perl</i>	Developer StudioでPerlマニピュレータに組み込むことができるクラスおよびメソッドについて説明しています。パイプラインでPerlマニピュレータを使用すると、レコードを操作することができます。
<i>XML Reference</i>	Endeca Information Transformation LayerのXMLファイルとDTDファイルに含まれるXML要素について説明しています。

索引

A

Assembler、次を参照 : Endeca Assembler

D

Discover Electronics 24

E

Endeca Assembler 20

デフォルトのカートリッジ処理 23
概要 19

Experience Manager 20

M

MDEX Engine

パッケージの概要 13

T

Tools and Frameworks

概要 19

あ

アーキテクチャの概要 20

い

インストール 29

か

カートリッジ 22, 23

インスタンス構成 23

レスポンス・モデル 23

カートリッジ・ハンドラ 23

こ

コンテンツ項目 22

Assemblerの処理 20

コンテナ 22

リーフ 22

構成 20

て

テンプレート 23

と

ドキュメント 46

Content Acquisition System (CAS) 47

Content Assembler API 45

Deployment Template 45

MDEX Engine 42

Platform Services 44

Developer Studio 47

Oracle Endeca Workbench 44

Presentation API 43

SEOモジュール 46

全般 41

り

リファレンス・アプリケーション、次を参照 : Discover
Electronics

れ

レンダラ 23

